

### 基準3 教員及び教育支援者等

#### (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

本校の教育目標のうち、一般科目によって達成しようとするものは「広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成」、「基礎学力を身につけた技術者の育成」及び「国際コミュニケーション能力を備えた技術者の育成」である。

一般科目で養成すべき人材像及び学力・資質能力に関する具体的な学習教育目標を資料3-1-①-1に、この目標を達成するために設定した一般科目の教育課程を資料3-1-①-2に示す。一般科目の教員配置を(資料3-1-①-3)に示す。

資料3-1-①-3の一覧にあるように、一般科目を22名の常勤教員が担当しており、高等専門学校設置基準の22名を満たしている。

資料3-1-①-1

「一般科目で養成すべき人材像及び学習・教育目標」

#### 一般科目(人文)で養成する人材像

今の時代が求めるものは、ひとつには専門的な知識と技術に精通した高度な専門性であり、ひとつには国際事情と人類の歴史についての該博な知識、そして確固とした倫理観に基づく高い見識である。またそれを獲得し伝達するためにコミュニケーションしようとする意欲と能力である。技術、情報、知識を操るのは人間であり、人間的基盤の健全な育成のため教養的かつ実践的な教育に一般科目(人文)は取り組んでいる。

以上に基づき、一般科目(人文)では、以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている。

#### 養成すべき人材像

- ・人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を考えることができる広い視野と倫理観を持った人材
- ・日本語で十分に受容・発信できるだけでなく、外国語でも異文化に偏見を持つことなく受容・発信でき、獲得した広い視野、高い見識、倫理観を実社会で活かすことができる人材

#### 一般科目(自然)で養成する人材像

人間に役立つ工学を活用し発展させるには工学の基礎となる物理・化学分野の自然法則を理解し、科学的な考え方を養うことが大切である。数学は自然法則を適切に表現するために必要不可欠な手段であるから、その手法や考え方を十分に学習しなければならない。

現代社会で科学技術の成果を利用しながら人間らしい健康な生活を送るためには、保健の知識を修得する必要があり、また、体育の心身に与える効用を体験的に理解しなければならない。

以上に基づき一般科目(自然)では以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている

#### 養成すべき人材像

- ・数学・物理・化学の基礎的な知識をもち、専門分野にそれを応用する能力のある人材
- ・心身の健康についての知識を持ち、健康的な生活を送ることができる人材

#### 一般科目で養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標

- ・人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
  - ・心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。
  - ・日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
  - ・英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。
  - ・数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
- 以上の学習・教育目標は準学士課程の各専門学科に共通のものである。

(出典 学生便覧)

一般科目(各科共通) (平成22年度以降入学生)

授業科目	授業種別	学修単位	単位数	学年別配当					備考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
国語	国語A	講義	2	2						
	国語B	講義	2	2						
	総合国語	講義	4年 ○	5		2	2	1		
社会	倫理	講義	2		2					
	政治・経済	講義	2			2				
	歴史	講義	4	2	2					
	地理	講義	2	2						
数学	数学A I	講義	6	2	2	2			解 析	
	数学A II	講義	6	2	2	2				
	数学B	講義	4	2	2				代 数	
物理	物理A	講義	1	1						
	物理B I	講義	2		2					
	物理B II	講義	2		2					
化学	化学A I	講義	2	2						
	化学A II	講義	2	2						
	化学B	講義	1		1					
保健体育	保健	講義	2	1	1					
	体育	実技	8	2	2	2	2			
芸術	美術	実技	1	1						
	音楽	実技	1	1						
外国語	英語A	講義	4・5年 ○	10	2	2	2	2	2	英文講読
	英語B	講義		3	2	1				英文法・作文
	英語C	講義		5	2	2	1			オーラルコミュニケーション
	第二外国語 (ドイツ語)	講義	○	4				2	2	
開設単位数合計				81	30	25	13	9	4	
修得単位数合計				81	30	25	13	9	4	
特別活動				3	1	1	1			

- 1 授業種別欄は、授業の形態により、講義、演習、実験・実習及び実技の別を示す。
- 2 学修単位欄に○印のある授業科目(同欄に学年の表示のあるものは当該学年のみ)は、第13条第3項に規定する授業科目を示し、空欄のものは同条第2項に規定する授業科目を示す。

(出典 学生便覧)

資料 3-1-①-3

一般科教員構成

	数学	外国語	国語	物理 化学	社会	体育	音楽 美術	合計
教授	1	3	1	2	1	2	0	10
准教授	2	2	1	0	0	1	0	6
講師	2	1	0	1	1	0	0	5
助教	0	0	1	0	0	0	0	1
計	5	6	3	3	2	3	0	22
非常勤講師	3	4	3	1	4	2	2	19
合計	8	10	6	4	6	5	2	41

平成25年度 一般科（人文）教員

氏名	職位	主な担当授業	主な研究テーマ
高原清志	教授	ドイツ語	ドイツ語コンピュータ教材の開発
清水晃	教授	英語	技術英語の指導に関する研究
亀山太一	教授	英語	英語教育とテクノロジー&エンターテインメント
宮口典之	教授	国語	横光利一とその周辺
久保田圭司	教授	政治・経済	イギリス学校教育の近代化
中島泰貴	准教授	国語	王朝物語の享受と展開
種村俊介	准教授	英語	第二言語習得における語彙・読解及び英語科教育法の研究
野々村咲子	准教授	英語	社会表象としての19世紀英文学
菅原崇	講師	英語	日英オノマトペ研究
空健太	講師	倫理, 地理	社会科教育学・批判的思考
大橋崇行	助教	国語	明治20年代の文学、文化、学術 現代日本の物語文化

平成25年度 一般科（自然）教員

氏名	職位	主な担当授業	主な研究テーマ
久世早苗	教授	保健, 体育	韓国女子スポーツ選手における初経遅延評価システムの構築
岡田章三	教授	数学	代数体上の理論の一変数代数関数体での類似
上原敏之	教授	化学	生体関連物質の構造解析
山本浩貴	教授	保健, 体育	各種柔道指導方法論について, 体力トレーニング指導実践
坂部和義	准教授	物理	ホワイトノイズ汎関数の経路積分への応用
中島泉	准教授	数学	Wordの研究 (ディオファントス近似を通して)
麻草淳	准教授	保健, 体育	健康づくりと競技力向上のための運動・トレーニングについて
岡崎貴宣	准教授	数学	相転移現象を現す数理モデルの構築と数値計算, モデリングの手法を取り入れた数学教育の教材開発
菅菜穂美	講師	物理	離散数学の場の理論への応用
北川真也	講師	数学	有理ファイバー曲面とモーデル・ヴェイユ格子、特異点の変形理論への応用
菱川洋介	講師	数学	分数冪微積分を用いた関数空間の解析

(出典 教務主事資料)

一般科目の非常勤講師を資料 3-1-①-6 に示す。

資料 3-1-①-6

「非常勤講師名簿」

不開示資料

(出典 人事委員会 資料)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準によれば、入学定員に係る学生を5の学級に編成する場合は、一般科目を担当する専任者の数は22人を下回ってはいけない。資料3-1-①-3の一覧にあるように、実員が22名であるので設置基準を満たしている。

**観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

5つの専門学科の各教員構成を資料3-1-②-1～5に示す。また、専門学科の全教員の構成を資料3-1-②-6に示す。また、各専門学科の教育目標は、資料1-1-①-11～15に示している。

資料3-1-②-1

機械工学科の教員構成					
氏名	職位	学位 技術士	実務経験 の状況	主な担当授業	専門分野
加藤浩三	教授	博士(工学)	■	塑性加工学, 塑性力学, 弾塑性力学	塑性加工学
小栗久和	教授	工学修士	■	材料力学, 計測工学	破壊力学
石丸和博	教授	博士(工学)	■	熱力学・エネルギー工学・工業力学	熱工学
片峯英次	教授	博士(工学)	■	計算力学, 工学解析, 連続体力学	計算力学
山村基久	准教授	修士(工学)	■	ものづくり入門, 機械設計製図 I, II, 機械設計法 I	設計製図
山田実	准教授	博士(工学)	■	制御工学, ロボット工学, システム計画学	制御工学
山本高久	准教授	博士(工学)	■	伝熱工学, 熱機関	熱流体工学
中谷淳	准教授	博士(工学)	■	流体力学, 流体機械, 流体力学特論	流体力学, 軌道力学
河野託也	講師	博士(工学)	■	応用物理 I, II, III	量子エレクトロニクス
稲葉金正	助教	工学士	■	ものづくり入門, 工学実習 I 工学実習 II, 創生工学実習 機械工作法	工学実習
本塚智	助教	修士(工学)	■	材料学	材料工学

(出典 教務会議資料)

資料3-1-②-2

電気情報工学科の教員構成					
氏名	職位	学位 技術士	実務経験 の状況	主な担当授業	専門分野
安田真	教授	博士(工学)	■	情報数学, 情報工学, 人工知能	ソフトコンピューティング
稲葉成基	教授	工学博士	■	電子工学, 光・量子エレクトロニクス	レーザ工学
山田功	教授	博士(工学)	■	信号処理, 情報理論, 画像処理工学	医用画像情報処理
所哲郎	教授	工学博士	■	電気回路, 回路網学, 高電圧工学	誘電・絶縁材料
熊崎裕教	教授	博士(工学)	■	電気磁気学, 電子計測, 計測工学特論	光電子, 光計測

出口利憲	教授	博士 (工学)	████████	データ構造とアルゴリズム, 言語理論	情報工学
富田睦雄	准教授	博士 (工学)	████████	電気機器特論, エネルギー変換工学, 自動制御, パワーエレクトロニクス	同期モータの制御と開発
羽淵仁恵	准教授	博士 (工学)	████████	電気磁気学 I, II, 光工学	
山田博文	准教授	博士 (工学)	████████	プログラミング, 情報理論	情報工学, パターン認識
富田勲	准教授	博士 (理学)	████████	通信工学, 電子物性	光エレクトロニクス, 固体電子論
飯田民夫	講師	博士 (工学)	████████	電磁気学, 電子回路, プラズマ工学	半導体工学
田島孝治	助教	博士 (工学)	████████	デジタル回路 I, ソフトウェア工学, 電気情報工学実験	情報工学, プログラミング, ネットワーク
白木英二	助教	博士 (工学)	████████	光工学	非線形光工学

(出典 教務会議資料)

資料 3-1-②-3

電子制御工学科の教員構成

氏名	職位	学位 技術士	実務経験 の状況	主な担当授業	専門分野
藤田一彦	教授	博士 (工学)	████████	デジタル回路、電気磁気学 I・II, 電子制御回路、材料学	固体物性工学 計測工学
白井敏男	教授	修士 (工学)	████████	電気磁気学 I・II、電子工学 電子デバイス	光電子工学 計測工学
長南功男	教授	修士 (工学)	████████	電気回路 I, 電気回路 II, 電子回路, 電動機デバイス	計測工学 メカトロニクス
森口博文	教授	博士 (理学)	████████	応用数学, 応用数学特論	非線形物理 応用数学
北川秀夫	教授	博士 (工学)	████████	情報処理 III, ロボット工学, ロボット応用, 制御工学特論	ロボット工学 計測工学
福永哲也	教授	博士 (工学)	████████	電子制御工学概論, 情報処理 I 計測工学、デジタルシステム 基礎	超伝導工学 電子・自動制御
遠藤登	准教授	博士 (工学)	████████	情報処理 II、システム制御 情報伝送工学、電子計算機	情報数理工学 制御工学
森貴彦	准教授	博士 (工学)	████████	制御工学、電子制御設計製図 II 電子制御工学実験 I	制御工学 システム制御
小林義光	准教授	修士 (工学)	████████	機械運動学 I、機械運動学 II 電子制御工学実験 II	機械制御 制御工学
北川輝彦	講師	修士 (工学)	████████	電子制御設計製図 I 電子制御工学実験 II、画像工学	画像認識工学 医用画像工学
栗山嘉文	助教	博士 (工学)	████████	材料の力学 I、材料の力学 II 電子制御工学実習 II	制御工学 ロボット工学

(出典 教務会議資料)

資料 3-1-②-4

環境都市工学科の教員構成

氏名	職位	学位 技術士	実務経験 の状況	主な担当授業	専門分野
鈴木正人	教授	工学博士	████████	水工学, 計画学	水門学, 河川工学
鈴木孝男	教授	工学修士	████████	水理学	水理学

岩瀬裕之	教授	博士 (工学) 技術士	■	コンクリート工学	コンクリート 工学
和田清	教授	工学博士 技術士	■	水工学, 環境工学	水工学, 環境 工学
吉村優治	教授	博士 (工学) 技術士	■	土質力学, 地盤工学	土質力学
廣瀬康之	准教授	工学修士	■	測量学, 防災工学	都市工学, 構 造工学
水野和憲	准教授	博士 (工学)	■	土質力学	土質力学
角野晴彦	准教授	博士 (工学)	■	環境工学, 測量学	環境工学
坂本淳	講師	博士 (工学) 技術士	■	都市工学, 交通工学	都市工学
水野剛規	助教	修士 (工学)	■	構造力学	構造工学
渡邊尚彦	助教	博士 (工学)	■	応用数学, 耐震工学	構造力学

(出典 教務会議資料)

資料 3-1-②-5

建築学科の教員構成

氏名	職位	学位 技術士	実務経験 の状況	主な担当授業	専門分野
下村波基	教授	工学博士	■	鉄骨構造, 建築技術者倫理	建築構造
犬飼利嗣	教授	博士 (工学)	■	建築材料, RC 構造	コンクリート 工学
鶴田佳子	教授	博士 (工学)	■	地域都市計画, 建築設計製図	都市計画
小川信之	教授	博士 (工学)	■	応用物理, 情報処理	応用物理
柴田良一	教授	博士 (工学)	■	構造力学, 情報処理	建築構造
今田太一郎	准教授	修士 (工学)	■	建築設計製図, 建築計画	建築計画
青木哲	准教授	博士 (工学)	■	環境工学, 建築設備	建築環境
藤田大輔	准教授	修士 (工学)	■	建築設計製図, 建築計画	建築計画
清水隆宏	准教授	博士 (工学)	■	建築史, インテリア設計	建築史
中谷岳史	講師	修士 (学術)	■	環境工学, 建築設備	建築環境
田中正史	助教	博士 (工学)	■	RC 構造, 構造設計	建築構造

(出典 教務会議資料)

資料 3-1-②-6

専門 5 学科の教員構成

職制 \ 学科	機械工学 科	電気情報 工学科	電子制御 工学科	環境都市 工学科	建築学科	合計
教授	4	6	6	5	5	26
准教授	4	4	3	3	3	17
講師	1	1	1	1	1	5
助教	2	2	1	2	1	8
計	11	13	11	11	10	56
非常勤講師	7	8	4	7	5	31
合計	18	21	15	18	15	87

(出典 教務会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校は 5 学科 5 学級であるので、設置基準によれば、助手を除いた教員数は 36 人を下回ってはならない。資料 3-1-②-6 に示すように、教員数の総計は 56 人であり、設置基準を十分に満たしてい

る。また専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は43名であり一般科目の教員数より多く、設置基準を満たしている。

また、専門5学科の教員構成について、同一学科についても、各教員の専門分野はバランスよく配置されており、これに応じて授業担当科目も配置されている。

以上のように、教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されている。

**観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

専攻科の教育目標は、「得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成」、「社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成」、「的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成」、「先端情報技術を駆使して専門分野のプログラム構築する能力を備えた技術者の育成」、「多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成」である。この目標を達成するために設定した専攻科電子システム工学専攻および建設工学専攻の教育課程を資料3-1-③-1および資料3-1-③-2に示す。また、一般科目、専門共通科目および専門展開科目の授業構成、担当者の一覧を資料3-1-③-3～5に示す。資料中の開講時期はⅠ：1年前期、Ⅱ：1年後期、Ⅲ：2年前期、Ⅳ：2年後期である。

電子システム工学専攻教育課程

(平成23年度以降入学生)

区分	授業科目	授業種別	単位数	開講時期		備考	
				1年次	2年次		
一般科目	必修	社会倫理学特論	講義	2		2	
		英語総合A1	演習	1	1		
		英語総合A2	演習	1	1		
		英語総合B	演習	2		2	
		必修科目開設単位数計		6	2	4	
	選択	文学	講義	2		2	
		総合ドイツ語1	演習	1	1		
		総合ドイツ語2	演習	1	1		
		数学アラカルト	講義	2	2		
		選択科目開設単位数計		6	4	2	
一般科目開設単位数合計		12	6	6			
一般科目修得単位数合計		8 単位以上修得					
専門科目	専門共通科目	必修	生命科学	講義	2	2	
			物質化学	講義	2	2	
			環境生態工学	講義	2	2	
			情報機器工学	講義	2	2	
			応用物理学	講義	2	2	
		情報工学	講義	2	2		
		創造工学実習	実験実習	2	2		
		必修科目開設単位数計		14	6	8	
		選択	量子力学	講義	2	2	
			連続体力学	講義	2	2	
	環境材料学		講義	2	2		
	システム計画学		講義	2	2		
	応用数学特論		講義	2	2		
	統計力学		講義	2	2		
	ヒューマンインターフェースデザイン		講義	2	2		
	実験アラカルト	講義	2	2			
	ビジネスアカウンティング	講義	2	2			
	プロジェクトマネジメント	講義	2	2			
	科学技術リテラシー教育実習	実験実習	2	2			
	選択科目開設単位数計		22	16	6		
	専門共通科目開設単位数計		36	22	14		
	専門展開科目	必修	電子システム工学実験	実験実習	4	4	
電子システム工学特別実習			特別実習	3	3		
特別研究			実験実習	14	6	8	
必修科目開設単位数計				21	13	8	
選択		計測工学特論	講義	2	2		
		流体力学特論	講義	2	2		
		回路網学	講義	2	2		
		半導体工学	講義	2	2		
		デジタルシステム基礎	講義	2	2		
		デジタルシステム応用	講義	2	2		
		拡散現象論	講義	2	2		
		弾塑性力学	講義	2	2		
		計算法学	講義	2	2		
		メカトロニクス特論	講義	2	2		
		医用画像情報処理	講義	2	2		
		制御工学特論	講義	2	2		
		デジタル制御工学	講義	2	2		
		電気機器特論	講義	2	2		
		計算論	講義	2	2		
		選択科目開設単位数計		30	14	16	
		専門展開科目開設単位数計		51	27	24	
		専門共通科目開設単位数計		36	22	14	
専門科目開設単位数合計		87	49	38			
専門科目修得単位数合計		54 単位以上修得					
開設単位数合計		99	55	44			
一般科目・専門科目修得単位数合計		62 単位以上修得					

建設工学専攻と共通

\*

\* 教育上支障のない場合に限り、他専攻の専門展開科目(選択科目)を履修することができる。  
この場合、8単位を限度として修了に必要な単位として認定することができる。

(出典 岐阜高専Web)

別表第3

建設工学専攻教育課程

(平成23年度以降入学生)

区分	授業科目	授業種別	単位数	開講時期		備考	
				1年次	2年次		
一般科目	必修	社会倫理学特論	講義	2		2	
		英語総合A1	演習	1	1		
		英語総合A2	演習	1	1		
		英語総合B	演習	2		2	
	必修科目開設単位数計			6	2	4	
	選択	文 学	講義	2		2	
		総合ドイツ語1	演習	1	1		
		総合ドイツ語2	演習	1	1		
		数学アラカルト	講義	2	2		
	選択科目開設単位数計			6	4	2	
	一般科目開設単位数合計			12	6	6	
	一般科目修得単位数合計			8 単位以上修得			
	専門科目	必修	生命科学	講義	2	2	
			物質化学	講義	2		2
情報機器工学			講義	2		2	
応用数学特論			講義	2	2		
応用物理学			講義	2	2		
情報工学			講義	2		2	
創造工学実習			実験実習	2		2	
必修科目開設単位数計			14	6	8		
選択			環境生態工学	講義	2	2	
			環境材料学	講義	2	2	
		量子力学	講義	2	2		
		連続体力学	講義	2	2		
		システム計画学	講義	2	2		
		統計力学	講義	2		2	
		ヒューマンインターフェースデザイン	講義	2		2	
		実験アラカルト	講義	2	2		
		ビジネスアカウンティング	講義	2	2		
		プロジェクトマネジメント	講義	2		2	
		科学技術リテラシー教育実習	実験実習	2	2		
		選択科目開設単位数計			22	16	6
専門共通科目開設単位数計			36	22	14		
専門展開科目		必修	建設工学実験	実験実習	4	4	
	建設工学特別実習		特別実習	3	3		
	特別研究		実験実習	14	6	8	
	必修科目開設単位数計			21	13	8	
	選択	構造解析学特論	講義	2	2		
		建設計画学	講義	2	2		
		環境調整工学	講義	2	2		
		リノベーション・デザイン	講義	2		2	
		地盤工学特論	講義	2		2	
		水管理工学	講義	2		2	
		建設振動学特論	講義	2		2	
		環境計画学	講義	2		2	
		都市形成論	講義	2		2	
		維持管理工学	講義	2		2	
		選択科目開設単位数計			20	6	14
		専門展開科目開設単位数計			41	19	22
		専門共通科目開設単位数計			36	22	14
		専門科目開設単位数合計			77	41	36
専門科目修得単位数合計			5 4 単位以上修得				
開設単位数合計			89	47	42		
一般科目・専門科目修得単位数合計			6 2 単位以上修得				

電子システム工学専攻と共通

\*

\* 教育上支障のない場合に限り、他専攻の専門展開科目(選択科目)を履修することができる。  
この場合、8単位を限度として修了に必要な単位として認定することができる。

(出典 岐阜高専Web)

### 専攻科授業計画および担当者

一般科目・専門共通科目

科目種別・科目名	授業種	単位数	開講時期				教科担当予定者		
			I	II	III	IV			
一般科目	必修	社会倫理学特論	講義	2		2		空	
		英語総合A1	演習	1	1			野々村	
		英語総合A2	演習	1		1		野々村	
		英語総合B	演習	2			2	土屋	
		小計		6	1	1	4	0	
	選択	文学	講義	2			2	宮口	
		総合ドイツ語1	演習	1	1			高原	
		総合ドイツ語2	演習	1		1		高原	
		数学アラカルト	講義	2		2		岡田・中島泉	
		選択科目開設単位数		6	1	3	0	2	
	一般科目開設単位数合計			12	2	4	4	2	
	専門科目	必修	生命科学	講義	2	2			横川（非常勤）
			物質化学	講義	2			2	上原
			環境生態工学	講義	2	2			和田
情報機器工学			講義	2			2	北川輝	
応用物理学			講義	2		2		富田勲	
情報工学			講義	2			2	安田	
創造工学実習			実験実習	2			2	樋口（非常勤）・柴田・石丸・富田睦・栗山・坂本・田中	
必修科目開設単位数計				14	4	2	6	2	
選択		量子力学	講義	2	2			坂部	
		連続体力学	講義	2		2		片峯	
		環境材料学	講義	2		2		高木（非常勤）・小野内（非常勤）・小栗・山田実・所・飯田・福永・水野和・清水・犬飼	
		システム計画学	講義	2	2			山田実	
		応用数学特論	講義	2	2			S:森口・安田 K(必修):森口・渡邊	
		統計力学	講義	2			2	小川	
		ヒューマンインターフェースデザイン	講義	2			2	今田	
		実験アラカルト	講義	2		2		小川・河村・小栗・所・出口・羽瀧（非常勤）・臼井・水野和・青木・下村	
		ビジネスアカウンティング	講義	2		2		奥野（非常勤）	
		プロジェクトマネジメント	講義	2			2	大野（非常勤）	
		科学技術リテラシー教育実習	実験実習	2	2			山田実・飯田・栗山・廣瀬・中谷岳	
		選択科目開設単位数計		22	8	8	4	2	
		専門共通科目単位数計		36	12	10	10	4	
		一般科目・専門共通科目開設単位数合計			48	14	14	14	6

(出典 岐阜高専Web)

### 専攻科授業計画および担当者

#### 電子システム工学専攻専門展開科目

科目種別・科目名		授業種	単位数	開講時期				教科担当予定者		
				I	II	III	IV			
専門科目	必修	電子システム工学実験	実験実習	4	2	2			中谷淳・山本高・山田博・飯田・藤田一・北川輝・北川秀・福永・遠藤・森	
		電子システム工学特別実習	特別実習	3	3				専攻科主任・M・E・D	
		特別研究	実験実習	14	2	4	4	4	専攻科主任・M・E・D	
		小計		21	7	6	4	4		
	選択	専門展開科目	計測工学特論	講義	2	2				熊崎
			流体力学特論	講義	2	2				中谷淳
			回路網学	講義	2	2				所
			半導体工学	講義	2		2			稲葉
			デジタルシステム基礎	講義	2	2				福永
			デジタルシステム応用	講義	2		2			福永
			拡散現象論	講義	2		2			河村
			弾塑性力学	講義	2			2		加藤
			計算力学	講義	2			2		片峯
			メカトロニクス特論	講義	2				2	北川秀
			医用画像情報処理	講義	2				2	山田功
			制御工学特論	講義	2				2	北川秀
			デジタル制御工学	講義	2				2	小林
			電気機器特論	講義	2				2	富田睦
			計算論	講義	2				2	出口
			選択科目開設単位数計			30	8	6	4	12
専門展開科目開設単位数計			51	15	12	8	16			
一般科目・専門共通科目開設単位数合計			48	14	14	14	6			
合計			99	29	26	22	22			
必修科目単位数			41	12	9	14	6			

(出典 岐阜高専Web)

### 専攻科授業計画および担当者

Ver.2013.4.16

建設工学専攻専門展開科目

科目種別・科目名		授業種	単位数	開講時期				教科担当予定者	備考	
				I	II	III	IV			
専門科目	必修	建設工学実験	実験実習	4	2	2			廣瀬、和田、鈴木正、坂本、下村、青木、鶴田 (I)(II):C・A	
		建設工学特別実習	特別実習	3	3				専攻科長・C・A	
		特別研究	実験実習	14	2	4	4	4	専攻科長・C・A	
		小計		21	7	6	4	4		
	選択	構造解析学特論	講義	2	2				柴田	A
		建設計画学	講義	2		2			鈴木正	C
		環境調整工学	講義	2		2			中谷岳	A
		リノベーション・デザイン	講義	2			2		柴田・清水・中谷岳	A
		地盤工学特論	講義	2			2		吉村	C
		水管理工学	講義	2			2		鈴木正	C
		建設振動学特論	講義	2				2	水野剛・渡邊	C
		環境計画学	講義	2				2	青木	A
		都市形成論	講義	2				2	鶴田	A
		維持管理工学	講義	2				2	岩瀬	C
			選択科目開設単位数計		20	2	4	6	8	
		専門展開科目開設単位数計		41	9	10	10	12		
一般科目・専門共通科目開設単位数合計			48	14	14	14	6			
合計			89	23	24	24	18	54単位以上修得		
必修科目単位数			41	12	9	14	6			

(出典 岐阜高専Web)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の教育は、一般科目教員と専門科目教員が共同で実施している。準学士課程に比べて専攻科の教員資格は厳しく設定されており、博士の学位を有する教員が優先的に配置されている。また、研究の活動状況や成果についても投稿論文などで評価を行いながら、各専攻のカリキュラムに十分、対応できるか判断している。専門科目では、博士の学位に限らず、技術士、建築士などの資格を有するもの、企業での実務経験があるなど、その分野で精通しているものを総合的に考慮のうえ授業担当者を決定しており、適切な配置ができていているといえる。

観点 3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

(観点到係る状況)

教員の年齢構成を資料 3-1-④-1 に示した。

資料 3-1-④-1

平成25年度 教員年齢構成													
人文		自然		機械		電気情報		電子制御		環境都市		建築	
年齢	職位	年齢	職位	年齢	職位	年齢	職位	年齢	職位	年齢	職位	年齢	職位
60	教授	57	教授	55	教授	61	教授	62	教授	61	教授	58	教授
56	教授	57	教授	53	教授	60	教授	58	教授	55	教授	49	教授
53	教授	53	教授	48	教授	55	教授	53	教授	54	教授	48	教授
51	教授	48	教授	47	教授	54	教授	51	教授	52	教授	47	教授
51	教授	56	准教授	62	准教授	51	教授	50	教授	49	教授	46	教授
49	教授	48	准教授	42	准教授	47	教授	49	教授	48	准教授	39	准教授
40	准教授	43	准教授	38	准教授	47	准教授	45	准教授	40	准教授	38	准教授
39	准教授	40	准教授	37	准教授	43	准教授	38	准教授	38	准教授	35	准教授
38	准教授	34	講師	36	講師	41	准教授	36	准教授	31	講師	34	講師
33	講師	30	講師	62	助教	33	講師	32	講師	34	助教	36	助教
32	講師			31	助教	30	助教	29	助教	31	助教		
						29	助教						

(出典 教務会議資料)

「学位取得候補教員の業務負荷配分の取扱い」を資料 3-1-④-2 に示した。本取扱いは、博士の学位取得をめざす教員の業務負荷を軽減し、学位取得に専念する状況を促進する趣旨のものである。所定の手続きにより適用が認められた教員は、校務分掌、クラブ顧問、あるいは授業分担の軽減が認められる。平成24年度は、本取扱いの当初年度であるが、電子制御工学科と建築学科から各 1 名、合計 2 名の教員の適用があった。

資料 3-1-④-2

「学位取得候補教員の業務負荷配分の取扱い」

不開示情報

(出典 岐阜工業高等専門学校規則集)

「専門基礎グループに関する申合せ」を資料 3-1-④-3 に示した。本申合せは、各専門学科において横断的に専門基礎科目の授業分担及び内容等を検討し、専門基礎科目の教育レベルを維持するための組織を設けることを趣旨としたものである。平成24年度は、専門 5 学科に各 1 名ずつのグループ員が配置され、趣旨に基づいた業務を実施している。資料 3-1-④-4 には、専門基礎グループで実施された物理実験のマスタープランについての意見交換会の資料の抜粋である。

資料 3-1-④-3

「専門基礎グループに関する申合せ」

不開示情報

(出典 岐阜工業高等専門学校規則集)

資料 3-1-④-4  
平成 24 年 6 月 5 日

意見交換会資料 (抜粋)

専門基礎グループ

応用物理の本科の講義一覧

3 M 応用物理 I (通年) 4 M 応用物理 II (半期) 5 M 応用物理 III (半期)  
 3 E 応用物理 I (通年) 4 E 応用物理 II (通年) 5 E・D 応用物理 II (半期)  
 3 D 応用物理 I (通年) 4 D 応用物理 I (通年)  
 3 C 応用物理 I (通年)  
 3 A 応用物理 I (通年) 4 A 応用物理 II (半期)

2. 応用物理実験室における実験講義について

各学科・複数学年に対して必要に応じて3回～5回程度で応用物理実験を実施

第3学年を中心に実験を実施

放課後の追実験・再実験における解放

仮進級の補習授業でも講義と併用して実験を活用

3. 実施例

3. 1 実施例 その1

実験テーマ (3年 建築学科 担当教員 小川) ( H 2 3 年 実施例 その 1 )

テーマ01 単振り子  
 テーマ02 Borda振り子による重力加速度の測定  
 テーマ03 Borda振り子による重力加速度の測定  
 テーマ04 Ewing法によるヤング率の測定  
 テーマ05 Ewing法によるヤング率の測定  
 テーマ06 角速度と慣性モーメント  
 テーマ07 力学的エネルギー保存則  
 テーマ08 運動三大法則  
 テーマ09 運動三大法則  
 テーマ10 運動三大法則  
 テーマ11 レーザー光回折  
 テーマ12 サーキットトレーナー  
 テーマ13 光電管

(出典 専門基礎グループ 意見交換会資料)

資料3-1-④-5に教員公募要項の一例を示した。教員の多様な年齢構成の実現するため、新規採用教員の年齢について、制限を設定している例である。また、女性教員を増員する趣旨から、「能力が同等の場合、女性応募者を優先的に採用します。」の記載も実施している。

資料3-1-④-5

平成23年6月23日

関係機関の長 殿

岐阜工業高等専門学校長  
 北田 敏廣【公印省略】

教員の公募について (依頼)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本校機械工学科では、下記の要領で教員を公募することになりました。

つきましては、関係各位へご周知いただくとともに、適任者の推薦をいただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

敬 具

記

1. 職名・人員 准教授、講師または助教 1名

2. 所属学科 機械工学科

3. 専門分野 応用物理の全分野

4. 担当科目 本科：応用物理（力学、電磁気学、相対論、量子論）、機械工学基礎研究、卒業研究 なお、

応用物理については機械工学科以外の学科でも担当いただきます。

専攻科：応用物理学（量子論）、特別研究等

5. 応募資格

(1) 博士の学位の取得者

(2) 高等専門学校の教育（生活指導、クラブ指導、寮生指導など講義以外の指導を含む）、研究および地域連携に理解と熱意のある方

(3) 採用予定日において年齢が35歳以下であることが望ましい（雇用対策法施行規則第1条の3第1項3号のイの適用により、長期勤続によるキャリア形成を図るため）

(4) 大学または高等専門学校において、機械系の学科を卒業したことが望ましい

6. 採用予定日 平成24年4月1日

7. 提出書類

(1) 履歴書（市販のものに本人自筆、写真貼付、電子メールアドレスを記載のこと）

(2) 教育研究業績一覧（著書、論文、報告等で指定様式または様式任意）

(3) 著書・論文等の別刷（コピー可、主要なものを3編程度）

(4) 研究業績概要（A4版、2000字程度、様式任意）

(5) 教育・研究・地域連携についての抱負（A4版、2000字程度、様式任意）

(6) 所属長（または指導教員）の推薦書

8. 応募締切 平成23年7月29日（金）必着

9. 選考方法 第1次選考：書類審査

第2次選考：面接および模擬授業（第1次選考合格者のみ）

（面接に伴う旅費等は応募者の負担とします。）

10. 書類提出先 〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑 2236-2 岐阜工業高等専門学校 総務課職員係 宛

※封筒に「機械工学科教員応募書類在中」と朱筆し、簡易書留で送付のこと。

なお、応募書類は原則として返却しません。

返却を希望される場合は、住所・氏名を記載した宅配便の伝票（着払用）を同封してください。

11. 問い合わせ先 「教育・研究に関すること全般」

機械工学科長 小栗久和 電話：058-320-1335 E-mail oguri@gifu-nct.ac.jp

「応用物理の授業内容について」

機械工学科教授 大野武久 電話：058-320-1320 E-mail:ohno@gifu-nct.ac.jp

「その他事務的なこと」

総務課職員係長 電話：058-320-1215 E-mail:jin1@gifu-nct.ac.jp

12. その他

(1) 応募者の個人情報、岐阜工業高等専門学校の教員を採用する目的のために利用するものであり、第三者に提供または公表することはありません。

(2) 高等専門学校はその教育目標や学生の幅広い年齢層（15～22歳）から教員の職務内容も大学とは異なります。高等専門学校の特質を良く理解したうえで応募されることを期待しています。

(3) **本校では採用に際して男女共同参画に配慮しており、能力が同等の場合、女性応募者を優先的に採用します。**

(4) カリキュラム等の詳細、提出書類の書式は本校HP(<http://www.gifu-nct.ac.jp/>)にありますのでご覧ください。

（出典 総務課人事係資料）

優秀な教職員を表彰する本校独自のシステムとして、資料3-1-④-6に本校の「特別功労者表彰規程」を示した。また、資料3-1-④-7にはこの表彰事例を示した。

資料3-1-④-6

岐阜工業高等専門学校特別功労者表彰規程

制定 平成14年9月11日  
学校規則第15号

（趣旨）

第1条 この規程は、岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育、研究及び学校運営に関し、また地域社会とのかかわりで特に顕著な功績等を挙げた者を「特別功労者」として表彰するため定めるものである。

（表彰を受ける者）

第2条 特別功労者の表彰は、次に掲げる各号の一に該当する者について行う。

一 講義、演習、実験・実習及びクラス運営等において新たな方法を創案し、その実践を行い、教育効果を高めた者

二 クラブ運営を通して学生の徳育・体育教育に功績のあった者

三 高等専門学校生向けの教科書を編纂し、教育効果を上げた者

四 各種委員会等において、学校運営に功績のあった者  
 五 技術指導、公開講座、共同研究及び学会活動等において、社会に貢献し、本校の名を高めた者  
 六 その他特に顕著な功績等を挙げた者  
 (特別功労者の選考)

第3条 校長は、前条に掲げる特別功労者を選考するため、本校に特別功労者選考委員会(以下「委員会」という。)を置く。  
 (組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、教務主事を委員長とする。  
 一 教務主事  
 二 研究主事  
 三 学生主事  
 四 寮務主事  
 五 事務部長  
 六 その他校長が必要と認めた者  
 (推薦の方法)

第5条 推薦者(各主事、各学科長、各種委員会委員長、教育研究施設の長及び事務部長)は、別紙様式1及び2により、候補者を委員会に推薦するものとする。ただし、自薦によることができる。  
 (表彰を受ける者の決定)

第6条 表彰を受ける者は、委員会の推薦により、校長がこれを決定する。  
 (表彰の方法)

第7条 表彰は、校長が表彰状を授与して行う。  
 2 前項の表彰に併せて、記念品を贈与することができる。  
 3 表彰は年1回行う。ただし、特に必要があると認められるときは、この限りでない。  
 (庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、総務課において処理する。  
 (雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、校長が別に定める。

附 則  
 この規程は、平成14年10月1日から施行する。  
 附 則(平成16年学校規則第14号)  
 この規程は、平成16年4月1日から施行する。  
 附 則(平成19年学校規則第45号)  
 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 岐阜工業高等専門学校規則集)

「特別功労者」表彰一覧

年度	候補者	選考結果	該当項目	備考(表彰日)
14	一般科(自然) 山本 浩貴	○	クラブ運営	15.4.26
〃	寮父 渡邊 義照	○	寮生指導	〃
〃	非常勤講師 輔老 英淳	○	非常勤講師	〃
〃	非常勤講師 田中 啓子	○	非常勤講師	〃
〃	岐阜工業高等専門学校教育後援会	○	各種団体	15.4.26
〃	若鮎会	○	各種団体	〃
15	一般科(自然) 川本 正則	○	クラブ運営	16.6.23
〃	建築学科 水野 耕嗣	○	社会貢献	16.6.23
16	機械工学科 橋浦 正史	○	管理運営	17.2.22
〃	機械工学科 稲葉 金正	○	技術指導	18.2.24
〃	電気情報工学科 北川 恵一	○	管理運営	〃
〃	電気情報工学科 稲葉 成基	○	JABEE	〃
〃	株式会社TYK会長 牛込 進	○	教育支援	18.3.1
18	一般(人文) 亀山 太一	○	講義演習等	19.2.6
〃	環境都市工学科 吉村 優治	○	クラブ運営	〃
〃	前校長 小崎 正光	○	学校運営	〃
〃	機械工学科 片峯 英次	○	資格取得教育	〃
〃	学生課 花木 毅	○	事務貢献	〃

19	電子制御工学科	木下 祥次	○	管理運営	20. 3. 13
20	機械工学科	稲葉 金正	○	技術指導	21. 3. 31
〃	電気情報工学科	所 哲郎	○	JABEE	〃
〃	総務課	遠山 基	○	事務貢献	〃
〃	技術室	松原 芳夫	○	実習教育	〃
21	学生課	八代 芳樹	○	事務貢献	22. 3. 31
〃	技術室	佐藤 昌彦	○	技術指導	〃
22	機械工学科	河村 隆雄	○	外部資金獲得推進	23. 3. 17
〃	電気情報工学科	羽瀨 仁恵	○	地域貢献	〃
23	電子制御工学科	北川 秀夫	○	特に顕著な功績(ホボコン)	24. 3. 8.
〃	環境都市工学科	吉村 優治	○	クラブ運営	24. 3. 8

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

資料3-1-④-1に示したように、教員の年齢構成は均衡の整った配置になっている。また、本校独自の「学位取得候補教員の業務負荷配分の取扱い」（資料3-1-④-2）の実現により、博士の学位取得を志望する教員の校務分掌負荷を軽減するシステムが構築されている。さらに、学科横断型の「専門基礎グループ」が設けられ、基礎科学分野の教育について先進的な役割を果たしている。また、教員の採用に関しては、適正な年齢構成の実現や女子教員の増員を促進する方法が採用されている。本校独自の教職員表彰規程が設けられ、この実現により、教職員の動機付けの向上を促進している。以上のように、学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

**観点3-2-①：** 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

(観点到に係る状況)

資料3-2-①-1に機構本部主導で本校も実施している教員表彰の実施案内を示した。評価の項目は、教員による自己評価、教員間の相互評価、及び学生の教員評価の3部門から構成されている。

<p>教員各位</p> <p style="text-align: right;">校長</p> <p style="text-align: center;">国立高等専門学校教員顕彰の実施について</p> <p>標記のことについて、高専機構理事長から通知がありましたので、下記により提出をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>(1) 教員による自己評価（第1部）及び教員による相互評価（第2部）                  評価方法：添付ファイル『教員の教育業績等評価』に基づき、『【提出書類】評価集計表』に点数等を記入してください。（『実施要項』も参照願います。）                  提出方法：『【提出書類】評価集計表』をプリントアウトし、印刷室に設置した投票箱に提出してください。3名の教員投票（第2部）については、投票者の氏名が判明しても差し支えない場合は切取不要です。                  提出期限：■■平成24年10月19日（金）■■</p> <p>(2) 学生による教員の評価（第3部）                  評価方法：第3～5学年学級担任教員の印刷室のボックスにアンケート用紙を配付しましたので、提出期限に間に合うよう実施してください。アンケートを実施する際は、『教員の教育業績等評価』の第3部（9ページ）の実施方法に基づき、「顕著な功績をあげている」と思う複数の教員の氏名を記名用紙に記入の上、提出するよう説明をお願いします。                  提出先：総務課職員係</p>	<p>資料3-2-①-1</p>
---	------------------

提出期限：■■平成24年10月23日（火）■■

（出典 総務課人事係 平成24年10月4日配信メール）

（分析結果とその根拠理由）

全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価を行なう手段として、機構本部が主導している教員表彰システムを本校も実施している。この結果は定量的に評価され、教員に示され、教育活動向上のための重要な動機づけの一翼を担っている。

**観点3-2-②： 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。**

（観点に係る状況）

資料3-2-②-1に本校の教員選考手続細則を示した。また、資料3-2-②-2に本校の人事委員会規程を示し、さらに資料3-2-②-3に「教員選考における候補者の評価基準等（抜粋）」を示した。教員の採用や昇格に関わる事項は、教員選考手続細則に基づき、当該学科等の提案により人事委員会に諮られ、審議される。また、この審議の際の判断の指針として、「教員選考における候補者の評価基準等」が適用される。

資料3-2-②-1

「岐阜工業高等専門学校教員選考手続細則」

不開示情報

（出典 岐阜高専 総務課Web）

資料3-2-②-2

岐阜工業高等専門学校人事委員会規程

制定 平成16年3月11日  
学校規則第13号

（設置）

第1条 岐阜工業高等専門学校における教職員（非常勤講師を含む。）の人事に係る事項等を審議するため、人事委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 教員（教授、准教授、講師、助教及び助手をいう。）の採用及び昇任の選考に関する事
- 二 教職員の人事管理に関する事
- 三 非常勤講師等の選考に関する事

（組織）

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 教務主事
- 三 研究主事
- 四 学生主事
- 五 寮務主事
- 六 事務部長
- 七 その他校長が必要と認めた者

（委員長）

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（委員以外の者の出席）

第5条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴取することができ

る。  
 (提出書類)  
 第6条 校長は、当該学科長から、次の各号に掲げる書類を提出させるものとする。  
 一 第2条第1号の審議を行う場合  
 イ 推薦書(様式1)  
 ロ 履歴書(様式2)  
 ハ 著書・論文等一覧(様式3)  
 ニ 教育及び研究に関する抱負(様式4)  
 ホ 選考候補者評価点数表(「岐阜工業高等専門学校教員選考における候補者の評価基準等」に定める別紙様式)  
 ヘ その他校長が必要と認めた書類  
 二 第2条第3号の審議を行う場合  
 「岐阜工業高等専門学校非常勤講師の選考に関する規程」に定める書類  
 (庶務)  
 第7条 委員会の庶務は、総務課において処理する。  
 (その他)  
 第8条 この規程に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。  
 附 則  
 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。  
 2 岐阜工業高等専門学校教官選考委員会内規(昭和54年10月1日制定)及び岐阜工業高等専門学校事務職員採用選考内規(昭和39年9月15日制定)は、廃止する。  
 附 則(平成19年学校規則第21号)  
 この規程は、平成19年4月1日から施行する。  
 附 則(平成20年学校規則第3号)  
 この規程は、平成20年4月1日から施行する。  
 (出典 岐阜工業高等専門学校規則集)

資料3-2-②-3

「岐阜工業高等専門学校教員選考における候補者の評価基準等(抜粋)」

不開示情報

(出典 岐阜工業高等専門学校規則集)

資料3-2-②-4に人事委員会の議事要旨のサンプルを示した。

資料3-2-②-4

平成24年度第4回人事委員会議事要旨

日 時 平成24年8月30日(木) 10時50分～11時10分  
 場 所 校長室前室  
 出席者 校長、教務主事、研究主事、学生主事、寮務主事、事務部長  
 陪席者 総務課長

議事に先立ち、7月2日開催の第3回人事委員会議事要旨の確認があった。

議 題  
 1 教員選考について  
 平成25年度4月1日付け採用候補者に係る教員選考について一般科目(自然)学科長より推薦書に基づき推薦理由及び「選考候補者評価点数表」について説明があり、同学科長が退席した後、審議の結果、次のとおり承認された。  
 一般科目(自然)・物理科目 助教採用 ●● ●●

2 非常勤講師採用者の変更について  
 総務課長から、資料に基づき、講師の転勤により変更となる旨の説明があり講師の資格を有していることから審議の結果、承認された。

3. その他  
 (省略)

(出典 総務課人事係資料)

非常勤講師の選考に関する規程を資料 3-2-②-5 に示す。

資料 3-2-②-5

## 岐阜工業高等専門学校非常勤講師の選考に関する規程

制定 平成15年11月12日  
学校規則第19号

## (趣旨)

第1条 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の選考は、他の法令等に規定するもののほか、この規程の定めるところによる。

## (選考基準)

第2条 非常勤講師候補者は、講師以上の資格を有し、本校の教育方針に沿った教育指導ができる者で、次の各号に該当する者とする。

- 一 採用予定年度の4月1日現在で、原則として年齢が満65歳未満の者
- 二 通勤距離が、原則として片道100km以内の者

## (雇用計画の策定)

第3条 学科長は、当該学科に非常勤講師の雇用を希望するときは、非常勤講師雇用計画書（別紙様式1）（以下「雇用計画書」という。）を雇用予定年度の前年度の10月末日までに教務主事を経て校長に提出するものとする。

2 校長は、各学科から提出された雇用計画書について、各学科長から意見を聴取の上、主管会議の議を経て、非常勤講師雇用計画（以下「雇用計画」という。）を策定する。

3 校長は、前項において策定した雇用計画を、雇用予定年度の前年度の11月末日までに各学科長に通知するものとする。

## (雇用手続)

第4条 学科長は、雇用計画に基づき、非常勤講師採用候補者調書（別紙様式2）及び履歴書（別紙様式3）を雇用予定年度の前年度の1月10日までに教務主事を経て校長に提出するものとする。

2 前年度に引き続き雇用を希望する非常勤講師候補者については、前項に規定する履歴書の提出を省略することができる。

3 第2条各号の規定にかかわらず、年齢が満65歳以上の者、通勤距離が片道100kmを超える者を雇用しようとする場合は、理由書（別紙様式4）を添付しなければならない。

4 雇用計画に基づく非常勤講師が交代する場合は、速やかに非常勤講師採用候補者変更調書（別紙様式5）、履歴書（前年度に引き続き雇用する場合を除く。）及び理由書（前項に該当する場合）を教務主事を経て校長に提出するものとする。

## (雇用計画の変更及び雇用手続)

第5条 学科長は、雇用計画が決定された後に、雇用計画の変更又はやむを得ない理由により新たに非常勤講師の雇用の必要が生じた場合には、速やかに雇用計画書を教務主事を経て校長に提出しなければならない。

2 校長は、学科長から提出された雇用計画書について、主管会議の議を経て、新たに雇用計画を策定し、当該学科長に通知するものとする。

3 当該学科長は、雇用計画に基づき、速やかに非常勤講師採用候補者調書、履歴書（前年度に引き続き雇用する場合を除く。）及び理由書（前条第3項に該当する場合）を教務主事を経て校長に提出するものとする。

## (選考等)

第6条 非常勤講師の選考については、人事委員会の議を経て、校長が決定する。

## (事務)

第7条 非常勤講師の雇用に関する事務は、総務課及び学生課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定めるものとする。

## 附 則

1 この規程は、平成15年11月12日から施行する。

2 平成16年度の非常勤講師の雇用については、第3条、第4条、第5条及び第6条中「学科長」は「学科主任」と、「10月末日」は「11月末日」と、「主管会議」は「運営会議」と、「11月末日」は「12月10日」と、「人事委員会」は「運営会議」とそれぞれ読み替えてこれらの規定を適用する。

## 附 則（平成19年学校規則第46号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

## 附 則（平成20年学校規則第4号）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

## 附 則（平成21年学校規則第12号）

この規則は、平成21年12月7日から施行する。

(出典 平成24年度非常勤講師雇用枠時間に関する基本方針)

非常勤講師雇用枠時間に関する基本方針を資料 3-2-②-6 に示す。

資料 3-2-②-6

「平成24年度における非常勤講師雇用枠時間に関する基本方針」

不開示情報

(出典 平成23年9月7日運営会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教員の採用、あるいは昇格に関する規程として、教員選考手続細則(資料3-2-②-1)、人事委員会規程(資料3-2-②-2)、及び「教員選考における候補者の評価基準等(抜粋)」(資料3-2-②-3)が定められている。教員の採用や昇格に関わる事項は、教員選考手続細則に基づき、当該学科等の提案により人事委員会に諮られ審議される。また、この審議の際の判断の指針として、「教員選考における候補者の評価基準等」が適用されている。以上のように、本校の教員の採用や昇格等に関する基準は、明確に定められており、適切に運用がなされている。

**観点 3-3-①： 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

資料 3-3-①-1 に 事務部・技術室の組織図を示した。教育に関わる主事、会議、及び学生課に配置された係の関係は、以下のとおりである。

教務主事－教務会議－教務係・入試係

学生主事－学生会議－学生係

寮務主事－寮務会議－寮務係

資料3-3-①-1

事務部・技術室の組織図				
<事務部>				
			総務・企画係 (課長補佐併任)	庶務業務・諸規則制定・渉外 中期計画・外部評価・知的財産・広報活動
		総務課課長補佐 (総務担当)	人事係	人事労務関係・共済組合
			研究協力係	研究支援・地域貢献・地域連携・公開講座
	総務課		財務係 (課長補佐併任)	予算・決算・債権管理・出納
		総務課課長補佐 (財務担当)	契約係	契約・資産管理
事務部			施設係	資産維持保全・施設整備維持
			教務係 (課長補佐併任)	教育課程・学業成績管理・留学生関係 進学
		学生課課長補佐 (教務・図書担当)	入試係	入学試験・学生募集
	学生課		図書・情報係	情報管理・図書館業務
			学生係	学生の生活・課外教育・保健管理 授業料免除・就職
			素務係	学生素管理
<技術室>				
			第一班	教育・研究支援
技術室	技術長		第二班	教育・研究支援
			第三班	教育・研究支援

(出典 総務課人事係資料)

資料3-3-①-2に技術職員の配置を示した。第一班の技術職員は授業に関わる業務としては、実習工場で実施される実習系科目について、学生の技能習得に携わっている。また第2班と3班の学科付の技術職員は、各学科における実験系科目・PBL系科目・演習系科目の教育支援を行っている。

資料3-3-①-2

「技術職員の配置（平成24年4月現在）」

不開示情報

(出典 総務課人事係資料)

(分析結果とその根拠理由)

各主事とその主催する各会議について、事務組織の各係が対応しており、各事務組織は教員の教育活動の展開に有機的に深く関わっている。特に、技術職員は実習工場における技能教育や、各学科における実験系・演習系の科目の遂行についての寄与が著しく、学生の技術者としての育成に不可欠な存在になっている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

専門学科と一般科の各教員間の連携を促進するために、学科会議規程や学級担任会議規程が新たに制定され、これらが適切、かつ有機的に運営されている。

(改善を要する点)

なし。

## (3) 基準3の自己評価の概要

本校では、教育活動を展開するために必要な教員が配置されている。教員組織については、学科会議規程、あるいは学級担任規程を新たに制定するなど、個別の教員の活動を有機的に関連付ける組織整備がなされている。

また、全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われている。これらの評価に基づき、その結果を学科会議規程や学級担任規程等の教員組織の見直し等に反映させている。また、教員の採用及び昇格等に当たっては、定量的で精緻な基準や規程が定められ、適切な運用がなされている。